

B-58 衣服の衛生加工に関する研究
——試験菌について——

東京家政大 神野 節子
○小友 洋子
林 知賀子

1. 衣服の衛生加工した製品は悪臭を防ぎ、皮膚湿しん、あるいは水虫の予防に効果があるといわれている。そして防菌試験菌としては普通 *Staphylococcus aureus* 209-P が用いられている。しかしこの菌の生育を防止することが、日本人の肌着の悪臭、皮膚湿しんを防止することになるといっていいのであろうか。これに関する知見をうるため、皮膚に生棲するバクテリアを分離し、それらの菌と、*Staphylococcus aureus* 209-P を用い衛生加工品に対する抗菌力を比較し、衛生加工製品の試験菌についての検討を行なった。

2. ①菌の分離、5 cm² 角のガーゼを6つ折りにしたもの4組を100mlの広口瓶に入れ、各試布に1mlずつ滅菌水を注入して121°Cで15分滅菌。ピンセット、メス、ハサミなども滅菌し、別に緩衝生理滅菌水を用意しておく。

被検者の腋下あるいは足の裏をガーゼで拭き、広口瓶にもどして細片とし、40mlの緩衝生理滅菌水を入れてよくふり、十進希釈法により希釈培養して皮膚の菌を純粋培養した。②菌の種類の同定：菌の種類を知るために生理試験と形態検査を行なった。③衛生加工品に対する抗菌力試験：既知の衛生加工試布を用い、*St. aureus* 209-P を対照として抗菌力を比較した。試験方法はAATCC-90-1958によった。

3. 皮膚分離菌の特性が判明した。抗菌力試験の結果 *St. aureus* は防止しても防止出来ない菌もあったので、